

第1回検証委員会の概要

日時：平成22年12月11日（土）
午後1時30分～3時30分

1. 会議の公開

冒頭で、検証委員会の会議を公開することについて、各委員の了承を得た。

2. 委員長等の選任

互選の結果、次のとおり選任された。

- ・委員長 柳瀬龍二（福岡大学環境保全センター 准教授）
- ・副委員長 石垣智基（独立行政法人国立環境研究所 主任研究員）

3. 議事概要

事務局から、「遮水シート破損事故の経過と概要」について説明の後、質疑が行われた。
また、質疑の途中で、委員による現地調査が行われた。

4. 主な質疑の概要

○法面は遮水シートが1層なので遮光マットと畳で保護して、遮水シートの下はモルタルがあるため安全であると地元の説明してきた。建設時の施工中に破損がなかったことを証明しろと言われている。起こった現象がどの時点で発生したのか検証いただきたい。

- ・建設工事施工中
- ・畳の設置時点
- ・埋立作業中

6月16日に最初の検知があった。初期の捉まえ方、環境監視委に報告がなかった点などにも問題があり、その点について今後はどうするのか整理願いたい。 (委員)

→建設工事施工後の埋立作業中の事故と推測しているが、原因・時期について検証をお願いしたい。必要な情報は提供させていただく。環境監視委員会への報告が遅れたのは、公社の勝手でありお詫びする。 (事務局)

○埋立作業中に破損したなら、今後もその危険性がつきまとう。それをどう防止するかが問われる。畳で保護していると説明してきたが疑念が生じている。大丈夫であることを証明していただきたい。 (委員)

○建設施工中の遮水シートの融着は性能が実証されているが、補修工事の融着は実証されていない。データの提供をお願いしたい。補修方法についてのメーカーの推奨と現場の方法がどうであったか確認したい。 (委員)

→参考資料-1の手順で補修している。 (事務局)

○一般的に、補修後は負圧検査を行う。今回の検査のデータ提供をお願いしたい。 (委員)

- 電極間の距離はどれくらいか。
補修後のシステム確認はどうやって行ったか。
「漏水注意」の黄色反応だったとのことだが、法面での反応と貯留部の反応は検知感度が異なるので、その点を考慮して分けて考えなければならない。 (委員)
→電極間の距離は10～15mである。
補修後のシステム確認はタイマーによる自動と手動で平行して行っている。 (調査業者)
- 埋立部分の検知は過去にあったか。 (委員)
→埋立部分の検知は、今回が初めてである。 (事務局)
- 写真はコピーでなく現物で確認したい。
漏水検知箇所の破損原因については、想定できるものを洗い出して事実はどうだったのかを明らかにしてほしい。調査中の事故の方は、どういった作業を行って事故に至ったのかをきっちり確認してほしい。重機で破損したのか、廃棄物で破損したのか等も含めて。
シート補修の順番、手順を明らかにしてほしい。 (委員)
→確認して提出する。(事務局)
- 調査中の事故については、作業者に原因等を確認済みか。 (委員)
→事業者からの報告では、「凸部状の遮水シートに接触し破損」とあり、重機の接触によるものと考えている。 (事務局)
- 推測ではなく、確かな情報を提供願いたい。 (委員)
- シートの破断面が鮮明な写真が必要である。掘削中、破断時、破断後調査時、補修時等段階を追ったものを可能な限り提供願いたい。作業指示書や修復作業状況なども併せて。 (委員)
- 今日の写真は破損状況の確認前か後か。 (委員)
→写真は、破損状況を確認するためにハサミで切り開いた後のものである。 (調査業者)
- そうであるならば、資料の写真には、手を入れる前か後か等説明を入れてほしい。(委員)
- 周辺地下水の汚染が起きていないことを示す資料を出してほしい。 (委員)
→参考資料-2で水質モニタリング結果を説明 (事務局)
- その他の上下流域の地下水の調査結果も提供願う。 (委員)

5. 検証スケジュール等

事務局から検証スケジュール等の案が説明され、了承された。

今回は、1月28日(金)午前9:30～ 於:クリーンセンター滋賀研修室